子育て世代が抱える ワークライフバランス及び 将来を見据えた大学生等の 多様なライフプラン形成に向けた 課題・ニーズ調査プロジェクト

－岡山市市民協働推進ニーズ調査事業－

調査報告書

子育て世代が抱えるワークライフバランス及び将来を見据えた大学生等の多様なライフプラン形成に向けた課題・ニーズ調査プロジェクト
調査報告書

ー岡山市市民協働推進ニーズ調査事業ー

2018 年 2 月 27 日

シンポジウム「ケアを考える－多様な子育ての現場から－」の案内チラシ

シンポジウム「ケアを考える－多様な子育ての現場から－」趣旨説明

シンポジウム「ケアを考える－多様な子育ての現場から－」講演

目　次

はじめに

1、本ニーズ調査事業の概要

2、大学生を対象としたアンケート調査
（1）調査の概要
（2）調査の結果

3、シンポジウムでのフリートークからみえる大学生と子育て世代の意識

4、参考資料
（1）「家族留学」を通してみえる大学生と子育て世代の意識
（2）子育て世代へのアンケート

おわりに

はじめに

本ニーズ調査事業は、働く介護者ほっとステーション「すまいる」が岡山市役所女性が輝くまちづくり推進課と協働し、子育て世代が抱えるワークライフバランスおよび大学生の多様なライフプラン形成に向けた課題やニーズを調査したものである。

結婚、育児、そして介護は、それまでの仕事や生活のあり方に少なからず変化を及ぼすものである。この変化は良いものばかりでなく、時として困難な状況を生み出すことも多い。ところが、現代社会においては、以上のような人生における変化、特に困難な状況への変化を支える人間的なつながりが希薄化したため、育児・介護によって孤立する人が多く存在している。

育児・介護の未経験者は経験者からの情報を得たいというニーズがある。また、育児・介護に従事している人は苦労や負担を共有することによって現実の負担が軽減されると感じるとともに、次世代に役立つように体験を発信したいという意識がある。

一方、大学生は卒業後の就職をひかえ、ライフステージの中で結婚・育児等の生活の変化を経験することになるが、核家族化や親戚付き合いの希薄化などにより、これらの変化を感じる機会が少ない。そのため、自分の将来に漠然とした不安を抱くことも少なくない。

以上のような、育児、そして介護によって人生の変化を余儀なくされる状況を改善する第一歩として、本事業では子育て世代と大学生とを対象に、仕事と子育てや介護などの両立についての意識や実態などを調査し、地域における男女共同参画の取組みを考える素材を集めることとした。

1、本ニーズ調査事業の概要

本事業では、アンケート用紙により子育て世代と大学生を対象に、仕事と子育てや介護などの両立についての意識や実態の調査を行った。あわせて、なるべく子育て家庭と大学生のリアルな声を聞くことを目指し、「家族留学」という仕組みを活用した。

「家族留学」とは、株式会社 manma が実施している事業である。manma の web ページには、「家族留学」の趣旨として、以下のように記されている。

> 若者のための家庭版 OBOG 訪問です。「結婚して、子供も欲しいけれど、仕事でも活躍したい」「自分は専業主婦の母親のもとで育ったから、両立のイメージがつかない」「子育てってどういう感じなの？」
>
> そんな若者に向けて、manma が提供している「家族留学」プレママ・プレパパ世代の若者が、子育て家庭に 1 日留学し、先輩ママさん&パパさんとの交流、育児体験を通して、生き方のロールモデルに出会い、ライフキャリアの選択や結婚、出産、子育てのリアルを学ぶ事業です。（株式会社 manma、https://manma.co/）

以上の仕組みを活用することによって、子育て世代と大学生との双方の生の声を聞くことが可能となる。本事業では、2017 年 10 月から岡山大学文学部で「家族留学」を活用した授業（専門知と職業）をスタートさせることになっていたことをふまえ、この授業を活用し、子育て世代と大学生双方のリアルな声を聞き取ることとした。

【実施事業】

＊アンケート調査　　2017 年 7 月～12 月実施

＊「家族留学」説明会

2017 年 7 月 23 日（日）

岡山大学津島キャンパス・文法経 1 号館・2F 会議室

＊シンポジウム「ケアを考える－多様な子育ての現場から－」

2017 年 12 月 10 日（日）13:30～16:00

岡山大学津島キャンパス　中央図書館・3F セミナー室

第 1 部　シンポジウム

シンポジスト　石原加恵（岡山市役所女性が輝くまちづくり推進課）
越智未空（株式会社 manma）
荻野志保（すぎなみ重度心身障害児親子の会みかんぐみ）
働くパパさん

第 2 部　ディスカッション・質疑応答（2 つのグループに分かれて実施）

2、大学生を対象としたアンケート調査

（1）調査の概要

【調査の目的】
仕事と子育てや介護などの両立についての意識や実態の調査

【方法】
アンケート用紙による調査

【実施期間】
2017 年 7 月 23 日～2017 年 12 月 31 日

【質問内容】
選択式と自由記述を併用

※アンケート調査の結果集計・結果資料作成は（株）学習調査エデュフロントに委託した。

（2）調査の結果

大学生の多様なライフプラン形成に向けた課題・ニーズ調査アンケート　集計結果

1　調査時期
2017年7月～12月

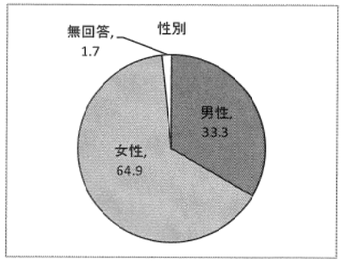
2　調査対象者
岡山大学の学生

3　年齢

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年　齢	173	18.0	25.0	19.1	1.0

4　性別

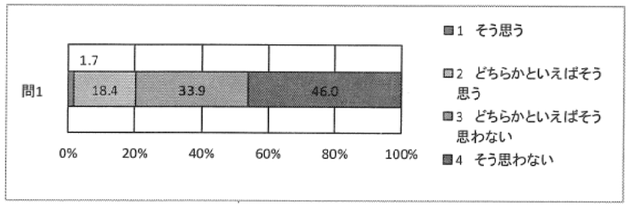
性　別	度数	%
男性	58	33.3
女性	113	64.9
無回答	3	1.7
合　計	174	100.0



5　問1

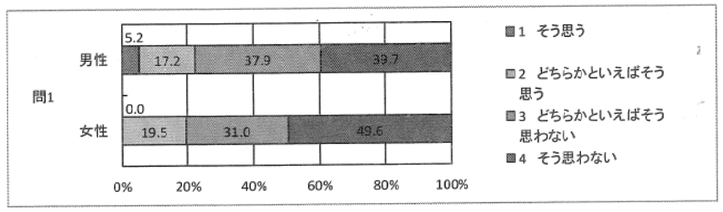
問1	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
「男は外で働くもの、女は家庭を守るものだ」という考え方について、あなたはどのように思いますか。	174	1.0	4.0	3.2	0.8

選択肢	度数	%
1　そう思う	3	1.7
2　どちらかといえばそう思う	32	18.4
3　どちらかといえばそう思わない	59	33.9
4　そう思わない	80	46.0
合　計	174	100.0



問1　男女別	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
男性	58	1.0	4.0	3.1	0.9
女性	113	2.0	4.0	3.3	0.8

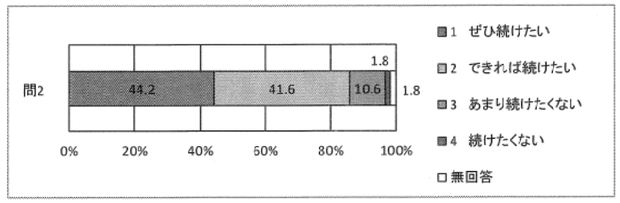
選択肢	男性		女性	
	度数	%	度数	%
1　そう思う	3	5.2	0	0.0
2　どちらかといえばそう思う	10	17.2	22	19.5
3　どちらかといえばそう思わない	22	37.9	35	31.0
4　そう思わない	23	39.7	56	49.6
合　計	58	100.0	113	100.0



6　問2【女性のみ】

問2	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
結婚後も仕事を続けたいと思いますか。	111	1.0	4.0	1.7	0.7

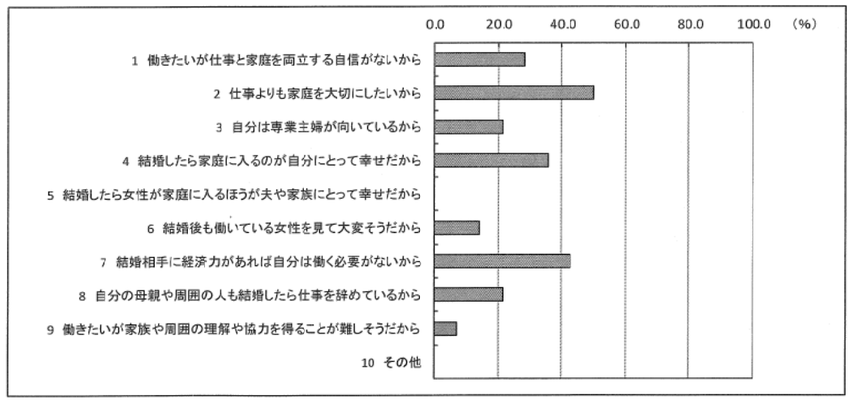
選択肢	度数	%
1　ぜひ続けたい	50	44.2
2　できれば続けたい	47	41.6
3　あまり続けたくない	12	10.6
4　続けたくない	2	1.8
無回答	2	1.8
合　計	113	100.0



7　問3【女性のみ】【問2で「続けたくない」「あまり続けたくない」と回答した方のみ】
「続けたくない」「あまり続けたくない」と思う理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　働きたいが仕事と家庭を両立する自信がないから	4	28.6
2　仕事よりも家庭を大切にしたいから	7	50.0
3　自分は専業主婦が向いているから	3	21.4
4　結婚したら家庭に入るのが自分にとって幸せだから	5	35.7
5　結婚したら女性が家庭に入るほうが夫や家族にとって幸せだから	0	0.0
6　結婚後も働いている女性を見て大変そうだから	2	14.3
7　結婚相手に経済力があれば自分は働く必要がないから	6	42.9
8　自分の母親や周囲の人も結婚したら仕事を辞めているから	3	21.4
9　働きたいが家族や周囲の理解や協力を得ることが難しそうだから	1	7.1
10　その他	0	0.0
合　計	31	—

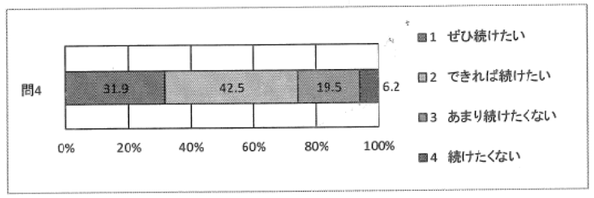
n= 14



8　問4【女性のみ】

問4	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
出産後も仕事を続けたいと思いますか。	113	1.0	4.0	2.0	0.9

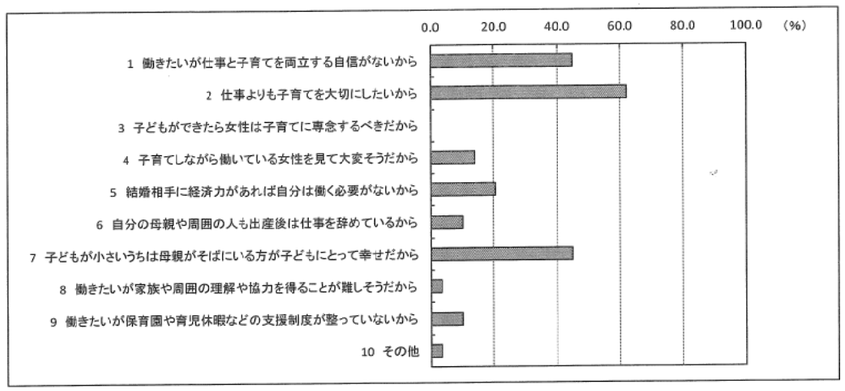
選択肢	度数	%
1　ぜひ続けたい	36	31.9
2　できれば続けたい	48	42.5
3　あまり続けたくない	22	19.5
4　続けたくない	7	6.2
合　計	113	100.0



9　問5【女性のみ】【問4で「続けたくない」「あまり続けたくない」と回答した方のみ】
「続けたくない」「あまり続けたくない」と思う理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　働きたいが仕事と子育てを両立する自信がないから	13	44.8
2　仕事よりも子育てを大切にしたいから	18	62.1
3　子どもができたら女性は子育てに専念するべきだから	0	0.0
4　子育てしながら働いている女性を見て大変そうだから	4	13.8
5　結婚相手に経済力があれば自分は働く必要がないから	6	20.7
6　自分の母親や周囲の人も出産後は仕事を辞めているから	3	10.3
7　子どもが小さいうちは母親がそばにいる方が子どもにとって幸せだから	13	44.8
8　働きたいが家族や周囲の理解や協力を得ることが難しそうだから	1	3.4
9　働きたいが保育園や育児休暇などの支援制度が整っていないから	3	10.3
10　その他	1	3.4
合　計	62	—

n= 29



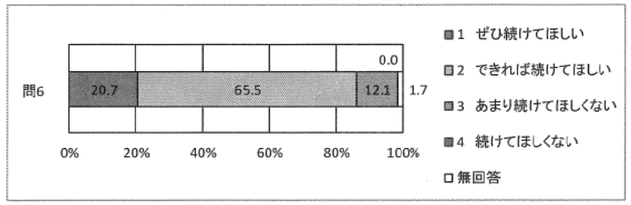
選択肢10　その他　の内容

・子供が少しでも寂しいと思うならやめたい

10　問6【男性のみ】

問6	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
結婚相手（妻）には結婚後も仕事を続けてほしいと思いますか。	57	1.0	3.0	1.9	0.6

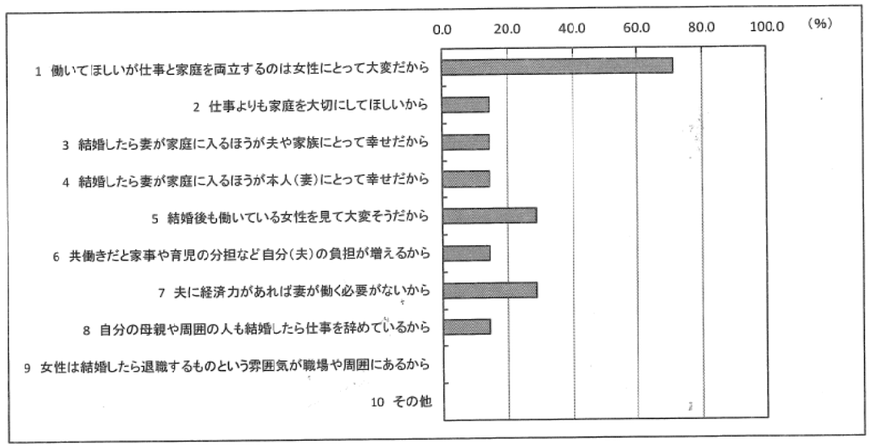
選択肢	度数	%
1　ぜひ続けてほしい	12	20.7
2　できれば続けてほしい	38	65.5
3　あまり続けてほしくない	7	12.1
4　続けてほしくない	0	0.0
無回答	1	1.7
合　計	58	100.0



11　問7【男性のみ】【問6で「続けてほしくない」「あまり続けてほしくない」と回答した方のみ】
「続けてほしくない」「あまり続けてほしくない」と思う理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　働いてほしいが仕事と家庭を両立するのは女性にとって大変だから	5	71.4
2　仕事よりも家庭を大切にしてほしいから	1	14.3
3　結婚したら妻が家庭に入るほうが夫や家族にとって幸せだから	1	14.3
4　結婚したら妻が家庭に入るほうが本人（妻）にとって幸せだから	1	14.3
5　結婚後も働いている女性を見て大変そうだから	2	28.6
6　共働きだと家事や育児の分担など自分（夫）の負担が増えるから	1	14.3
7　夫に経済力があれば妻が働く必要がないから	2	28.6
8　自分の母親や周囲の人も結婚したら仕事を辞めているから	1	14.3
9　女性は結婚したら退職するものという雰囲気が職場や周囲にあるから	0	0.0
10　その他	0	0.0
合　計	14	—

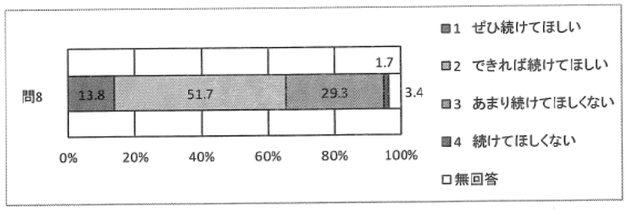
n= 7



12 問8【男性のみ】

問8	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
結婚相手(妻)には出産後も仕事を続けてほしいと思いますか。	56	1.0	4.0	2.2	0.7

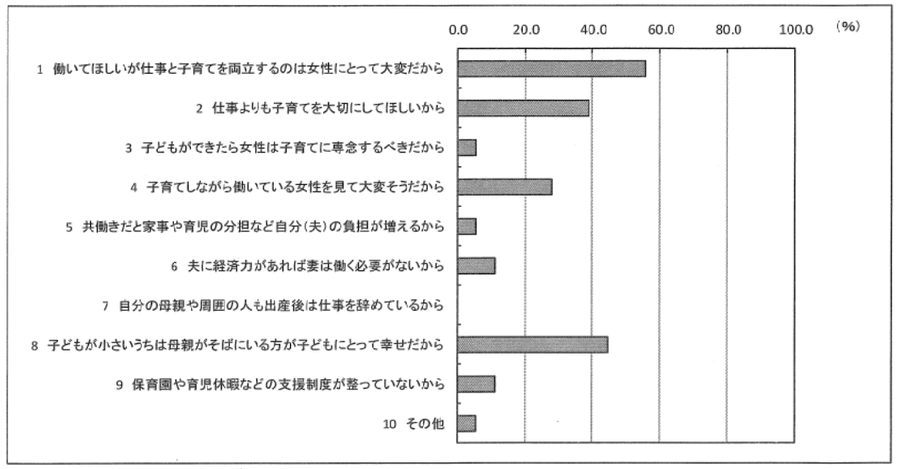
選択肢	度数	%
1 ぜひ続けてほしい	8	13.8
2 できれば続けてほしい	30	51.7
3 あまり続けてほしくない	17	29.3
4 続けてほしくない	1	1.7
無回答	2	3.4
合　計	58	100.0



13 問9【男性のみ】【問8で「続けてほしくない」「あまり続けてほしくない」と回答した方のみ】
「続けてほしくない」「あまり続けてほしくない」と思う理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1 働いてほしいが仕事と子育てを両立するのは女性にとって大変だから	10	55.6
2 仕事よりも子育てを大切にしてほしいから	7	38.9
3 子どもができたら女性は子育てに専念するべきだから	1	5.6
4 子育てしながら働いている女性を見て大変そうだから	5	27.8
5 共働きだと家事や育児の分担など自分(夫)の負担が増えるから	1	5.6
6 夫に経済力があれば妻は働く必要がないから	2	11.1
7 自分の母親や周囲の人も出産後は仕事を辞めているから	0	0.0
8 子どもが小さいうちは母親がそばにいる方が子どもにとって幸せだから	8	44.4
9 保育園や育児休暇などの支援制度が整っていないから	2	11.1
10 その他	1	5.6
合　計	37	—

n= 18

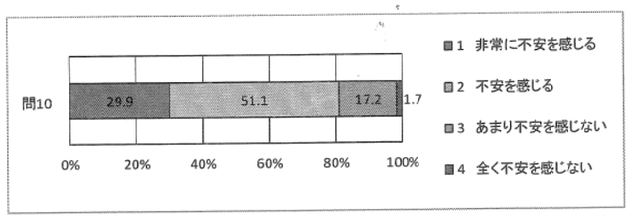


選択肢10 その他 の内容
・子育ては親がすべきで、保育園やベビーシッターに委託すべきでないと考えるため。

14　問10

問10	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
あなたは将来の介護について、不安を感じていますか。	174	1.0	4.0	1.9	0.7

選択肢	度数	%
1　非常に不安を感じる	52	29.9
2　不安を感じる	89	51.1
3　あまり不安を感じない	30	17.2
4　全く不安を感じない	3	1.7
合　計	174	100.0

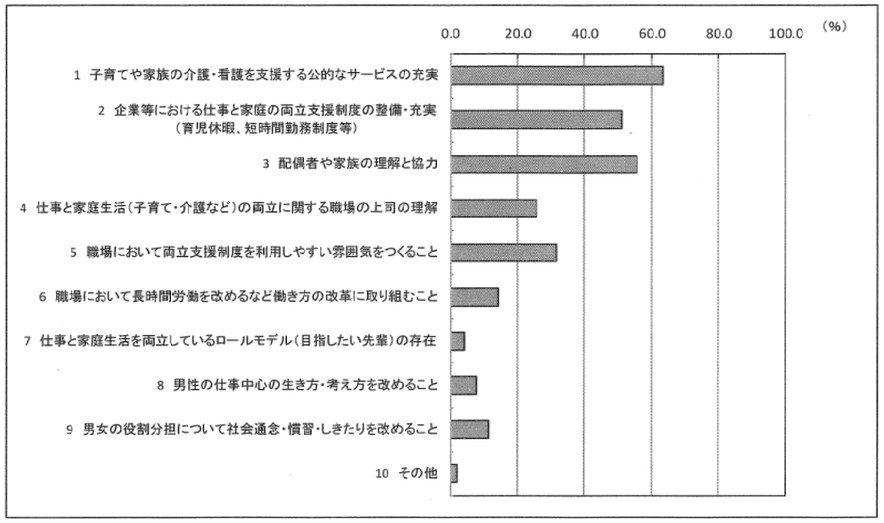


15　問11

女性も男性も、家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　子育てや家族の介護・看護を支援する公的なサービスの充実	110	63.2
2　企業等における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休暇、短時間勤務制度等）	89	51.1
3　配偶者や家族の理解と協力	97	55.7
4　仕事と家庭生活（子育て・介護など）の両立に関する職場の上司の理解	45	25.9
5　職場において両立支援制度を利用しやすい雰囲気をつくること	55	31.6
6　職場において長時間労働を改めるなど働き方の改革に取り組むこと	25	14.4
7　仕事と家庭生活を両立しているロールモデル（目指したい先輩）の存在	7	4.0
8　男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること	14	8.0
9　男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりを改めること	20	11.5
10　その他	4	2.3
合　計	466	—

n= 174



選択肢10　その他　の内容

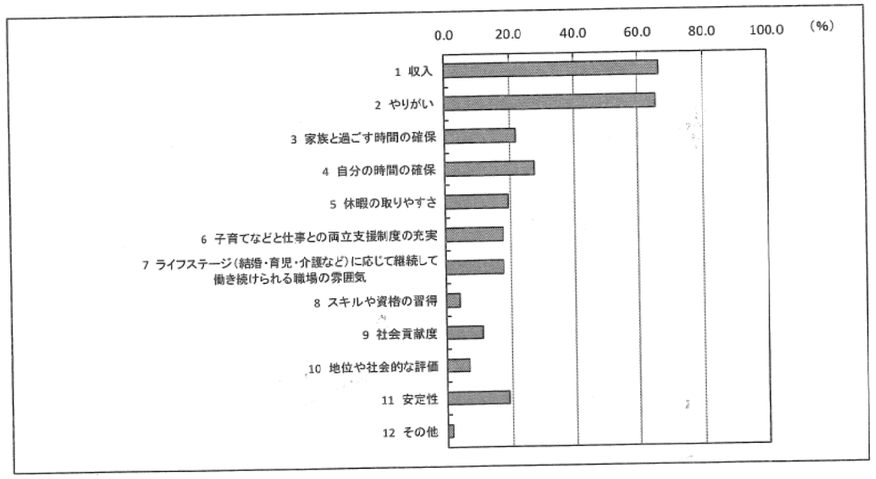
・仕事をしなくてもそれらが成り立つ社会を作ること
・十分な収入
・女も学歴、手に職をつけるべきだという教育
・NPOなどの頼れる存在。（頼ってもいいんだと思ってもらうこと）。

16　問12

あなたが仕事を選ぶうえで重視していることは何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　収入	116	66.7
2　やりがい	114	65.5
3　家族と過ごす時間の確保	38	21.8
4　自分の時間の確保	48	27.6
5　休暇の取りやすさ	34	19.5
6　子育てなどと仕事との両立支援制度の充実	31	17.8
7　ライフステージ（結婚・育児・介護など）に応じて継続して働き続けられる職場の雰囲気	31	17.8
8　スキルや資格の習得	7	4.0
9　社会貢献度	19	10.9
10　地位や社会的な評価	12	6.9
11　安定性	33	19.0
12　その他	3	1.7
合　計	486	—

n= 174

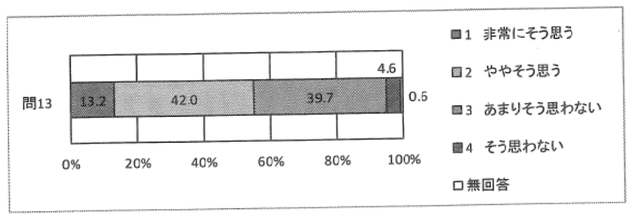


選択肢12 その他 の内容
・自分の力が生かせそうかどうか
・楽しさ
・女性が元気そうか

17 問13

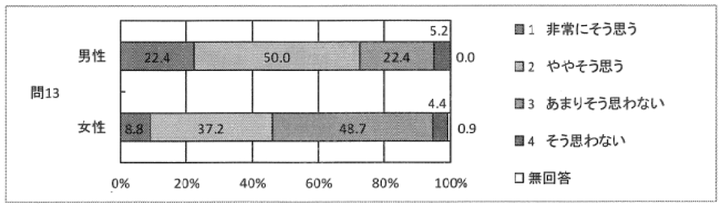
問13	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
企業等に就職したら管理職を目指して働きたいと思いますか。	173	1.0	4.0	2.4	0.8

選択肢	度数	%
1 非常にそう思う	23	13.2
2 ややそう思う	73	42.0
3 あまりそう思わない	69	39.7
4 そう思わない	8	4.6
無回答	1	0.6
合　計	174	100.0



問13 男女別	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
男性	58	1.0	4.0	2.1	0.8
女性	112	1.0	4.0	2.5	0.7

選択肢	男性		女性	
	度数	%	度数	%
1 非常にそう思う	13	22.4	10	8.8
2 ややそう思う	29	50.0	42	37.2
3 あまりそう思わない	13	22.4	55	48.7
4 そう思わない	3	5.2	5	4.4
無回答	0	0.0	1	0.9
合　計	58	100.0	113	100.0

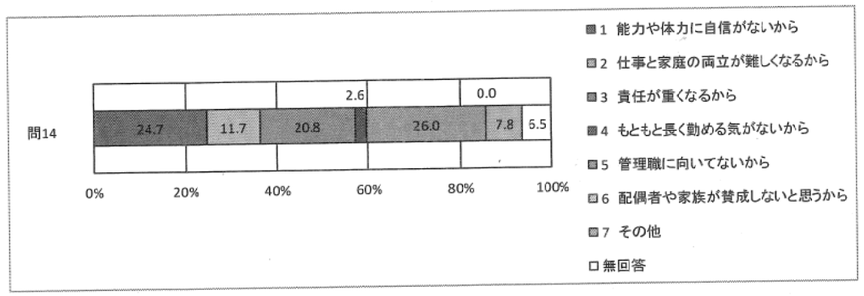


18　問14

「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した方にお尋ねします。「そう思わない」「あまりそう思わない」を選択した理由は何ですか。

選択肢	度数	%
1　能力や体力に自信がないから	19	24.7
2　仕事と家庭の両立が難しくなるから	9	11.7
3　責任が重くなるから	16	20.8
4　もともと長く勤める気がないから	2	2.6
5　管理職に向いてないから	20	26.0
6　配偶者や家族が賛成しないと思うから	0	0.0
7　その他	6	7.8
無回答	5	6.5
合　計	77	100.0

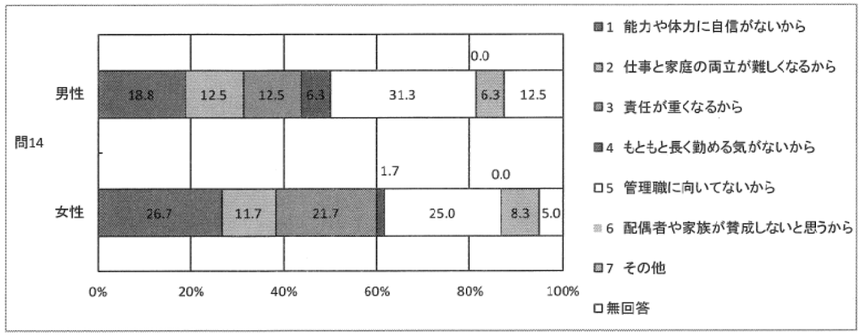
n= 77



選択肢7　その他　の内容

- 親が管理職になってから大変そうなのを見たから。
- 楽しくなさそうだから
- なれたらなるし、なれなければならない
- 特にはない
- 子どもと直接関わる立場でいたいため
- 管理職についてよくわからない

問14　男女別	男性		女性	
選択肢	度数	%	度数	%
1　能力や体力に自信がないから	3	18.8	16	26.7
2　仕事と家庭の両立が難しくなるから	2	12.5	7	11.7
3　責任が重くなるから	2	12.5	13	21.7
4　もともと長く勤める気がないから	1	6.3	1	1.7
5　管理職に向いてないから	5	31.3	15	25.0
6　配偶者や家族が賛成しないと思うから	0	0.0	0	0.0
7　その他	1	6.3	5	8.3
無回答	2	12.5	3	5.0
合　計	16	100.0	60	100.0
	n= 16		*n*= 60	



3、シンポジウムでのフリートークからみえる大学生と子育て世代の意識

このニーズ調査事業では、若い世代のワークライフバランスの実態や意識についてリアルな声を聴くため、大学生を対象としたアンケート調査のほか、さまざまな角度からアプローチを試みた。

その一つとして、多様な子育てのあり方や働き方を通して、ワークライフバランスやケアのあり方を考えるシンポジウムを開催した。このシンポジウムにおいて、大学生や子育て世代のリアルな声として、シンポジストとともにディスカッションした内容の一部を紹介する。

◆シンポジウム概要◆

【開催日】2017年12月10日（日）「ケアを考える－多様な子育ての現場から－」

【内　容】

第１部：シンポジストによる報告

４人のシンポジストから、ワークライフバランスの課題と取組について報告

第２部：ディスカッション（フリートーク）

子育て世代など社会人と大学生などがシンポジストとともにワークライフバランスについてグループディスカッション

◆ディスカッションでの主な意見◆

○就職先や働き方の選択について

・（聞き手）「将来仕事を続けたい？」

・（大学生Ａ）「就職先とかもどうしようかなと、今迷っていて、決め手をどうしたらいいのか。シンポジストの話も聞いて、子育てにどれくらい時間をかけられるかとかも参考にしないといけない。いろんな選択肢があるなか、就職を決めていかないといけない。迷い中です。」

・（大学生Ｂ）「高校の時は仕事を続けるイメージだったんですけれども、なんかいろいろ考えていくと、親が共働きで楽じゃないというのもあるんですけど、家庭と両立するのは難しいのかなと感じて。一回辞めてもう一回働くとなったら、それはそれで難しいじゃないですか。就職する時もそれを踏まえて考えていかないといけないのかなと考えると悩みは募るばかり。」

・（大学生Ａ）「逆に考えすぎるから不安になって。わからない事を考えているから、不安があります。」

・（大学生Ｂ）「ブラック企業の話とか、破綻しちゃった人のニュースとか、いろいろ情報が流れているけど。（以前は実感がなく）何とかなるって思ってました。」

・（大学生Ａ）「何とかなるだろうみたいな。保育園活動とか。」

・（社会人Ｃ）「今、すごく女性に対して働け、働けみたいな流れがあるじゃないですか。でもそれってやっぱり、自分の意思でどうしたいかが大事だと思っていて、別にずっとバリバリのキャリアみたいなのを目指すのがいいわけではなくて、例えば先程のアンケートでもあったんですけど、子供が産まれたらしっかり自分で子育てしたいから、そういう理由で仕事を辞める女性もいて。別にどれがいいとか悪いとかではなく、ただ本当は自分は続けたかったのに両立の支援がなかったり周囲の理解がなかったり、子育ては母親がするものみたいなのがあって、自分は継続して働きたいのに、それが選べないのが一番残念なこと。就職先を考える時に、子育てとの両立ができる会社かどうかとか、そういうことも含めて、自分がどうしたいのか。逆に私自身は就職する時にはそんなことを何も考えてなかったので、大学２年生くらいからライフプランについて考える授業があったり、良いことだなと思います。」

・（社会人Ｅ）「私は以前、所謂ブラック企業に勤めてたんですけど。面接で聞いたんですよ、育休とか、産休取れる制度有りますかって。そしたら有りますって。制度はあったけど、誰も取ってなかったんですよ。みんな辞めるんですよ。それは会社が取らせてくれないのもあるし、取ったところで、そんな職場環境で絶対復職できないから辞めてしまう。就活で聞くんだったら実際取って復職された方はどれくらいいますかって聞いた方がいいです。」

・（聞き手）「取らせない雰囲気みたいなのはあったのかな」

・（社会人Ｅ）「最初に言われました、有給は取らないでねって。新婚旅行しか取っちゃいけないからって。新入社員だと社会はみんなそういうものかなって思うので、ハイって言っちゃって。友達の会社の話聞いたら全然違うよって。」

・（社会人Ｄ）「自分の力ではどうしようもないところだから、やっぱりある程度自分のやりたいことも見つつ、それを叶えられる環境を自分で揃えていく必要があるよね。どうしてもそういうブラック企業に入っちゃったら、自分のやりたいことがあるのに、辞めざるをえない。辞めないと自分のやりたいことが叶えられないとかだと、それもまた悲しい。」

○育児などと仕事との両立やワークライフバランスの考え方について

・（社会人Ｆ）「結婚や出産とかライフステージがいろいろあるなか、働き続けるイメージなのか、結婚するとそれこそ家に入るっていう考え方、人によってさまざまだと思うんですけど、大学生はどんなイメージですか？」

・（大学生Ａ）「迷ってるんですけど、結婚した後そんなにバリバリ働きたいっていうのは今はなくて。家庭に入るか、もしくは仕事してもそんなに現役時代よりもバリバリ働かなくてもいいような、それこそパートさんとか。親が今、学童保育で仕事しているんですけど、午前中だけとか、午後だけとか行ったり。それぐらいで働きたいって今は考えています。」

・（大学生Ｂ）「イメージとしては多分辞めるんじゃないかなと思うんですけど。もしかし

たらその時にすごくその仕事が楽しかったら続けたいと思うかもしれないです。」

・（社会人Ｆ）「辞めるんじゃないかなと思うのはどうして？」

・（大学生Ｂ）「何か続けられなさそう、仕事と家庭の両立が、どっちかに傾いちゃったら、どっちかしかできなくなるイメージがあるので。多分辞めちゃうんじゃないかなと思います。」

・（社会人Ｃ）「育った家庭環境の影響をすごく感じる。私は両親が働いていたから、働くのが当然という感じだった。やっぱりロールモデル、そういう人を見れば、それこそ家族留学とか経験すると、また考え方も変わってくるのではと思いますね。やっぱりいろんなことを知るのはとっても大事で、その中で自分が何をしたいのか、一つの部分しかわからなかったら、それしか選択肢が見つからないけど、いろんな事を経験することによって選択肢がいっぱい増えていって、本当に自分のやりたいことが何かが学んでいける。」

・（社会人Ｆ）「ワークライフバランスっていう言葉がいっぱい出ていますけど、どんなイメージですか」

・（大学生Ａ）「今もよくわからないです。」

・（大学生Ｂ）「また家の話になるんですけど、うちの場合は、お父さんが結構仕事をやっていて、家に帰ってきたら寝るとか、休みの日とかでも結構寝てるイメージが私には強く、あまり家事はしていないイメージがあって。だからさっきの話でも、共働きでも専業主婦でもお父さんがあまり家事していない状況をみると、やっぱり私も将来働くのは難しいのかなと思います。」

・（社会人Ｆ）「そこを分かってくれる人、一緒に家事もできる人を結婚相手に選んだら・・。」

・（社会人Ｇ）「（最初からできなくても、できるように）育てること。うちの夫は実家暮らしだったので、１人暮らしした事なくて。全然なにもできなくて。今は５０：５０ですからね。だから決めつけなくても大丈夫。私自身の話をすると、私は小さいころから漠然と、ずっと仕事をしたいと思ってたんですよ。別にそれは何がってわけではなくて、うちは母親が専業主婦で、ちょっとパートしたりだったけど、何となく自分をずっといかしたいと思っている子どもだったんですよね。何ができるかわからないですけど。それは小中高大と学んでくるものがあって、これを何らかの形でいかせる人生だったらいいなという思いだけ漠然とあって。それで就職して、仕事は結構好きだったのでバリバリやっていて、ずっと仕事を続けると思っていたんですよね。わりとポジションも上に上がって、管理職になって。子供が産まれて復帰してもポジションが変わらなかったので、なんか案外変わらずいけるんだって。下がると思っていたのに、大丈夫なんだ、と思って。ところが、自分の力ではどうしようもない状態（娘が事故でスペシャルニーズが必要な状態）になった時に、人生初の挫折以上ですよね、なんかもう 180 度人生が変わってしまって。本来の自分を取り戻すのには一年以上かかったんですけど、そこで、今の活動もそうなんですけど、やっぱり根底にあるのは、なにを、仕事なのか何かわからないけど、自分を社会にいかしたいというのはやっぱりずっと変わらなくて。今は仕事でバリバリやっているとかではないけど、社会的な活動をしようという方向に自分の力を注ぐみたいな。多分ワークライフバランスって別に働くのを続けるか、辞めるかだけじゃなくて、いろんな事が関係してくると思っています。大学生の時だからこそ、いろんな事をやっている人に会って、そういう人生もありなんだみたいな事を、いっぱい知っておくことが大切だと思います。自分がもし何か折れそうになった時に、ふとその人の事思い出したり、１００か０じゃない世界を自分で作れると思うんですよね。私は実体験でそれが自分の身に起こったので、そんなこと思って大学生活全く過ごしてなかったんですけど。今の大学生には、大学生活のなかで、いろんなパターンの人物に会って、良くも悪くも、なんかいろんな人生があるんだなっていうのを知っておくのが、多分、今一番できることなんじゃないかなと思います。それがいつ何事でいきてくるかわかんないから。」

・（社会人Ｅ）「すごく感動しました。ワークのとらえ方ですよね。だから、どこかに勤めてお金をもらうのがワークじゃなくて、お金をもらえるとか、どこかに所属するとかじゃなくて、自分が働くっていう、なんか、広さですよね、本当にそうだなって思って。」

・（社会人Ｇ）「お金になれば一番いいんですけどね」

・（社会人Ｅ）「それだけじゃないですよね、主婦、家事だってそうだし。家事のスペシャリストのお母さんになるっていうのでも、いいのかもしれないですよね。家事して育児して、自分の時間をつくるってこれ、ワークライフバランスですよね。ライフワークバランスという言葉に、もやもやしていたんですけど、とてもすっきりしました。」

○困難に直面したときの生き方について

・（聞き手）「人生には自分の価値観を転換せざるを得ない危機に直面する事があると思うんですけど、それをなかなか学ぶ機会がないし、そういう機会を失わせているのが、今の教育のあり方の悪いところかもしれないと思うんですよね。危機的な状況に直面した時に、やっぱり仕事が継続できないとか、日本社会の悪いところだと思っているんですよね。Ｇさんは今自分でそれを新しい価値を見いだしてやっているけれども、なんで仕事が継続できないのかと、素朴に疑問をもってしまいますけど。誰にでも起こりうるはずなのに。」

・（社会人Ｇ）「今、Ａ区には、フローレンスさんが起ち上げた日本で初の障害児保育園ができて、でも、うちの子があと１年で一年生になる時にできたので、もういいやって思って、うちは利用してないんですけれども。重い障害のある子を育てながら、その保育園に入れてフルタイムで働いているお母さんもいるんですよ。なのでやっぱり、今後は多分どんな状況でも、自分のキャリアを自分の思う様に形成しやすい世の中にはなってくると思うんですけど。でも私は今の現状は割と好きで、以前は仕事がとても好きでバリバリやるんだって思っていたんですけど、実際できなくなって、家で、家の事もやったり、ちょっと仕事やったりっていう生活になってみて、初めて案外家

にいる事が好きだった自分がいて。初めて気が付いたんですよ。まさかそんな人だとは思ってなかったんですけど。家の花壇をちょっと植え替えたり、みたいな時間がフルタイムで働いてるとほとんど取れないですけど、なんかそういうのをやりながら自分の時間で仕事をちょっとする、そんな生活が、案外私は今は気に入っていて。娘がそうなってしまった（障害をもった）ことは元に戻るなら元に戻したいですけど、現状の自分の環境は割と満足しているというか、それだからこそわかったことがあるなと今は前向きにとらえたんですよね。」

・（聞き手）「このGさんの生き方って多分ね、介護者にとって重要で、一回マイナスになるじゃないですか、やっぱり。そこをかつてあったように戻りたいって思い続けていても全然ダメなんですよ。戻れないので、次の違う価値を見いだして、そこに良い価値を見いだしていって、人生の見方を変えないと、多分、ながらケアって苦しいだけなんだと思うんですね。やっぱり自分の根底に社会の役に立ちたいって、それがあるから、こういう生き方ができたのでしょうか。」

・（社会人G）「あと、負けず嫌いなんですよね、だから戻りたいっていういのは、負けず嫌いになるのかもしれないですけど、戻れないので、物理的に。だったら他の人ができないところの価値を自分の価値にしてやるって。あと、小４の息子に言われるんですけど、無駄にポジティブなんですって、私。「お母さんって無駄にポジティブだよね」って言われるんです。無駄ってほめてんの？って。娘のことでどん底までいったんで、もうそこ以上のものはないって、地獄以下を見たんで、もう上がるしかない。無駄にポジティブになってきていると思うんですけど、そういう性格もあるとは思います。でもやっぱり、周りはそんな人じゃない人ももちろん沢山いるので、１人で悩んでいても、何人かと喋っていたら心が軽くなったりってこともあるから、そういうことに私の性格をいかせるんじゃないかと思って活動していたり。だからきっと無理やりそっちにもっていってる感はあると思います。自分の中では。戻れないなら違う道でやってやるというような。」

○働くことの意義について

・（社会人 F）「学生の人たちはどういう価値観で仕事を選ぶのか、やりがいとか、その仕事をするうえでこれは大事だなと思うとか、会社を選ぶとき、こういうことを大事にしている会社がいいなと思いますか。」

・（大学生A）「やっぱり、先ほど話にもあったんですけど、自分がなんのためにやっているのかわかんない事って、身に入らないなとすごく思うんで、自分がやっていることが誰かの役に立っている事が実感できるような仕事には就きたい。」

・（大学生B）「バイトしてて思う事なんですけど、塾の講師をしているんですけど、自分を塾長とかが信頼してくれて、ちゃんと任せてくれて、やらせてくれているので、すごい嬉しい事だと思うんで、そういう人間関係のある会社に行けたらいいなと思います。」

・（社会人 F）「お金は？お金も大事でしょう？」

・（大学生A）「確かに」

・（社会人 F）「でもまあ、どんどんお金を稼ぐというよりも、任せてくれるとかやりがいとか、そっちのほうなんですかね、どちらかというと。」

・（大学生B）「給料が極端に低くない限りは。」

・（社会人G）「結構女性の方が、やりがいとかを求める気がするんですけど、そんな事ないですかね。お金は二の次というか、やりがいを求めるのが。男性で、野心があって、お金を儲けるぞって方もいるじゃないですか、女性ってあんまりいないなって。」

・（社会人D）「僕はやりがいがないと仕事絶対やらないですけどね。野心ってお金だけじゃなくて、やりたい事、こうしたいっていうのも、野心だと思うんですよ。」

○仕事と子育ての両立を体験する家族留学について

※家族留学の受け入れをした子育て家庭を参加者と表示しています。

・（聞き手）「家族留学についてシンポジスト（manma さん）の報告を聞いて、大体イメージをつかめましたか。こういうことやるのか、みたいな。」

・（大学生A）「子育て家庭を訪問して、子どもと一緒に学生も一日過ごす、という。」

・（参加者C）「そうです。何か決まったプログラムがあるというよりは、そのままの日常に居させてもらうという形。」

・（聞き手）「manma さんの課題で、家族留学が一時的なケアに留まっていることが挙がっていたけど、それは、留学先の家庭に行った時に、一時的に何か考えるんだけど、それが継続しないという意味ですか？一時的に考えるんだけど、それを長期的に何かをできるような体験プログラムはないというような。」

・（manma）「ケアをどう捉えるのかにもよるのかなと思うんですけど。繋がりの面で言うと一時的ですよね。ほとんどの家庭は一日一緒に会って、その後連絡を取らない人がほとんど。そういう意味では一時的ですが、先程受け入れ家庭のシンポジストの方の報告にあったように、そのときに受け入れ家庭として客観的に振り返って、こうしたかったのにって気づき、それを実行に移すと、本人の中で長期的な進歩になっていたり、学生にとっては、例えば、受け入れ家庭に行って、こういうパパがいるんだ、自分もこうなりたいって思った男子学生が、そのためのキャリア選択をしたりとか。その後の家族形成の参考にしたら、それは長期的な効果なんですけど。」

・（聞き手）「（家族留学の効果として）言語化されてないけど、データとしてあがってないけど、（家族留学を受け入れて、その後に）長期的に考えていらっしゃる方も少なからず、潜在的にいるわけですよね、きっと。学生さんのほうでも（留学後も）ずっと考えている人はいる、可能性はあるわけですよね。それをプログラムとして何か考えられるような、新しくなにか作る必要性があるのか、それとも今のままで、だけど、それを長く考える、考えられるような経験であってほしいと思ってらっしゃる？」

・(manma)「説明会とかで家族留学に参加する前の学生さんたちと話をしていく中で、目的を明確にしている学生さんがいて、その学生さんとかは多分家族留学に行った後もずっと、将来について沢山考えるとは思うんですけど。目的意識もあまりなく、それこそ漠然としたまま、家族留学に参加した学生さんは、子供がかわいかった、僕も早く結婚したいな、私も結婚したいな、それで終わってしまう。そういう学生さんもやっぱり中にはいるよねっていうのが、manma の課題であり、今できる事としては事前説明会で何を不安に思っているとかを、深く聞いて、明確化して、その上で質問を沢山もって家族留学に行ってもらうことが、今できる最大限のことなのかなと思ってます。」

・(参加者D)「個人によるんですよ。例えば、意識の高い学生、意識の高い家庭しかきていないから。もっと届けたかった層に広げていく時に、それこそさっきおっしゃった仕組み作りなんかも必要だったり。その後つながりがもてるようなネットワークコミュニティを作ったりとか、大事だなと思います。」

・(聞き手)「今日聞いていた話ってなんでもそうで、個人の意識に依存するところってすごくある。大学の授業も個人の意識に依存してるから、受けたくない授業は受けないし、面白い授業はみんなやるでしょう。この授業を受けて家族留学を体験した学生は、意識が高い人なんだと思うんですよ。文学部で開講している授業なのに、他学部から選んで受講している学生もいる。」

・(参加者C)「どうしてこの授業(家族留学)を受講しようと思ったの?」

・(大学生B)「講義はいっぱいあるんですけど、経済学部の授業で、いっぱい取るんですけど、やっぱり、なんか専門科目だと、自分の将来に直接的に結びつくってイメージが、あんまりわかなくて。せっかく大学に来て、いろいろ時間を使って勉強するんだったら自分と結びついている様子が想像できるものを取りたいなと思ってこの授業を取りました。」

・(大学生A)「友達が受けていて、その友達から家族留学の話を聞いて、楽しそうだなと思って、受けようかなと。なんか最初子どもの2人いる家庭に行くんだみたいな話をしていて、どう接したらいいかな、なんて話を皆でしていたんですよ。それで、行った後に、結局なんかいろいろ考えていたけど楽しかったよみたいな感じに聞いて、楽しそうだなって思って、受けようかなという感じです。」

・(manma)「家族留学は、最初は首都圏で始まったので、違う地域に展開していくのが、結構難しいと思っていて、東京では今、口コミで聞きましたってフェーズぐらいまでいっているのかな、と思うんですけど。それ以外の地域では広がってはいるものの、北海道に2家庭とか、香川県に1家庭とか、そういうレベルなので、そこはもうちょっと広げていきたいなと思っています。あともう一つ感じていたのは、地域的に家庭がちょっと違うのかなと思っていて、東京で言うと比較的専業家庭、主婦の方が多いので、子育てしながら働き続けたいロールモデルがいないっていうのがあてはまるんです。でも、違う地域にいくと、結構両立家庭が多い地域もあったりとか、保育園の問題とかも全然違ったり、課題も違うし・・・」

・(参加者C)「家族留学でうちに来られた学生さんは、自分が専業主婦のお母さんに育てられたので、なんとなく専業主婦がいいのかなと思っていたんだけど、うちに来て、考え方がちょっと変わったって、仕事も家庭もいろいろ欲張れるんじゃないかなって。やっぱりそういうスイッチが変わる場面があると思うので、必ずしもこういう家庭に行きたいっていう所じゃない所に行くっていう事も十分、意味があるんじゃないかなと思います。」

・(参加者C)「受け入れ家庭によっても温度差ってあると思うんですけど。家庭内でも、うちの妻は専業主婦ですけど、こういうソーシャルな活動とかって全く興味がなくて。でも、子どもは喜んでいたし。だからそういう温度差も、行った家庭によって結構あると思います。僕はもっとオープンになって欲しいし、こういうのをどんどんやった方が、子どもの為にも、自分達の為にもなるなと。」

・(参加者D)「僕達は受け入れる時に、娘にとって楽しめるようなお姉さんが来てくれたらいいなってその一点だけだったので、まあその結果我々夫婦も気づいたこともあったし。家庭によってそれぞれ家族留学がもたらすものが違うと思います。」

・(manma)「確かにそうですね。仕事との両立って一言で言っても、すごくバラバラですよね。夫婦のバランスも50:50の所もあれば8:2ぐらいの所もあるし、ある意味リアルな現実を知ることができるのも家族留学なのかと思ってます。最近カップル留学が増えていて、彼女が彼氏を連れてくるとか、彼氏が彼女を連れてくる。岡山でもあったんですよ、2月頃に、1つあって。それも、結構真剣に結婚を考えていますっていう時に、例えば彼氏を連れてきて、考えるきっかけにするとか、ある意味リアリティを見て、ただの妄想の、こんな家族になったらいいよねっていう先を行く、リアリティを見て考える、みたいなものとして、結構使われてきている。」

・(参加者C)「普段とは違った面が見えていいんだろうね、カップルにとっていいような気がする」

・(参加者E)「生産的になればいいんだけど、(家族留学を経験することで)すごく溝ができちゃうってことはないのかな。」

・(参加者D)「逆にそれはそれでいいんじゃないですか、結婚する前に事前に知っていると。」

・(manma)「最近すごく上がってきているのが、24歳ぐらいからとか、20代後半のニーズ。多分実際働き始めると、リアルになってくるんですよ。結婚どうする、さらにその先どうする、みたいな所があって増えている。新しい傾向として。」

・(大学生A)「さっきのディスカッションの時の発言で、いろんな経験をしている人にいっぱい話を聞いておくと、自分がなにか困った事とか、変わろうって思う事があった時に参考になるっていう話がすごく心に残って、今回まさにいろんな経験をされている方の話が聞けて、この授業をとらなければ家族留学の事も知らなかったですし、いろんな知識を吸収できたかなと思います。」

4、参考資料

（1）「家族留学」を通してみえる大学生と子育て世代の意識

本ニーズ調査事業では、若い世代のワークライフバランスの実態や意識についてリアルな声を聴くために、「家族留学」を活用した授業の協力を得た。大学生が子育て家庭を訪問（家族留学）して聞き取った内容や感想を記したメモのなかから、本事業に関連する記述を抜粋し以下に掲載する。

◆大学生Ａ

＜Ａが聞き取った子育て世代の声＞

・子育てには気力・体力が必要
・大人同士の関係なら“察する”事が出来るけど、子供は出来ない
・気持ちのメンテナンスが出来ないから、しんどい時に「しんどいんだぁ」って言える場所は１つでも多い方が良い。
・切羽詰まった時には市のセンターに電話した事も。
・ひとりでもたくさんの大人に自分の子どもを知ってもらうのはすごく良い事。
・自分と自分の友達とのつながりも大事だけれど、“親子として”いろんなところにつながっておく。子どもにとっても、お母さん以外の大人を見て育つのは良い。逃げ道にもなる。
・今は核家族で子供と大人の関わりが希薄になっていると思う。
・時間を大切にするために仕事をやめた
・自分の好きなことを探しておく
・社会人になったらお金はあっても時間がない

＜Ａの感想＞

・子育ては１人や２人（夫婦）だけではするものではなく、周りの人と一緒にするもの。
・受け身ではなく、自分からアンテナを張って子育ての情報を集めるのが大切。
・子育てに対して、今までは漠然と「大変」というイメージばかりが先行していたが、留学を通して楽しい事もいっぱいあるのだと思えた。

◆大学生Ｂ

＜Ｂが聞き取った子育て世代の声＞

〇社会に出て困ったことについて

・困ったことは特になかった。しかし、社会人として認めてもらおうと肩の力が入っていて、実際の自分とのギャップに疲れる面があった。また対人関係において、自分の身は自分で守らないといけないと知った。

〇どのようにして今のライフスタイル（専業主婦、３７才で結婚）を選んだのか。

・２０代の時は結婚・子育ての想像が全くつかなかったし、怖かった。ずっと働いてお金を得て、それを自由に使えて、刺激を多くもらえた。３０代になったら子供が欲しくなったが、その理由として、仕事は別に「私の代わりは誰でもいる」けれど、女性である自分しか、自分の子供を産み命をつなぐことは出来ないと考えるようになったため。誰かに必要とされたいという思いから子供がほしいと感じるようになり、ギリギリで結婚した。
・専業主婦であるのは、子育てを第一にしたくて結婚したため。子どもに時間を割きたくて、専業主婦を選んだ。←あらゆる選択肢の存在。

〇子育ては怖いと２０代の時には思っていたとあるが、今やってみてどうか？

・「自分は親だから完璧にしないと！」と何でも力を入れると、いつか爆発してしまう。「私はこんなに頑張っているのに！」となってしまうし、そのシワ寄せは子どもへ行ってしまう。自分が辛い時は子どもにそれを伝えていいのでは、と考えるように。自分の弱みを見せてもよい、というのをスタンスに無理せず行っている。
・子育てを通じて新たに知れる世界もあった。例えば、子どものミュージカルの実施など。楽しみもあるので、楽しみながらやれる。

＜Ｂの感想＞

・「シワ寄せが子どもへ行く」というのに納得した。一番弱い、かつ身近な存在へシワ寄せは行ってしまう。この考えが広まったら苦しむ日も減りそうである。
・子育てというとネガティブな面ばかり見がちだが、楽しさがあると聞き、新たな一面を知ることができた。子育てのイメージが変わった。実際のお母さんからのコメントで説得力があった。

◆大学生Ｃ

＜Ｃが聞き取った子育て世代の声＞

・体力・気力が大切。
・気持ちのメンテナンス、周りのサポート、しんどいと言える場所。
・大人に自分の子供を知ってもらう。親子としてつながることが大切。
・親以外の大人と会うことが大切。社交性がアップし甘えられる場所が増える。

◆大学生Ｄ

＜Ｄが聞き取った子育て世代の声＞

・公的サービスがもっとあれば・・・。
・子育て中の苦労：病気の時。自分一人では育てられない。
・みんなで支え合うのが上手。保育園の母親で協力し合う。

・公園がない。子供の遊び場が必要。
・子供向けのイベントはありがたい。コンサートなど。
・公園で遊んでいる人が少ない。近所の小さな公園は人がいない。
・日曜日に家族がそろう時間を大切に。
・実家の協力は助かるしありがたい。一番かわいがってくれる。
・社会に変わってほしい事：保育園、学童の充実、安心安全に育児できる場所、環境、ファジアーノ。そのために親も伝える必要。「人の子も叱っていいのか」お互いに言い合える環境。
・仕事＝自分の時間。仕事と家庭半々。保育園に入れているから仕事ができる。
・育休：男の人はなかなか取得している人がいない。片方が取得していたら取る必要ない？両方いた方が助かる。子供を外に出せない。病院に連れていく時や退院後１週間に産後休暇が取れたら理想。
・男女の認識の違い：男の人は育児で早く帰るのは難しい。「妻にまかせている」妻が中心に育児。「してあげてる」とは思っていない「するのが当たり前」と考えている。
・「地域性」「時代」も影響。親と同居している場合、夫は育児をしない。
・若い子の方が育児をしている。上の世代はしていない

＜Ｄの感想＞
・「共働き」が増えているなら「共育児」も増えるべきではないか？女の人は育休を取っているけど男の人は育休をほとんど取らない。「共働き」という新しい社会のスタイルと「女の人は育児すべき」「男の人は働くべき」という昔からの考えがズレを生んでいるのではないか？
・男女の役割の境界が無くなりいずれ中性化する？
・共働き＆共育児
「子供は１人では育てられない」→核家族、少子高齢化の現代で協力してくれる人は配偶者が一番身近。
・「仕事はある意味自分の時間」→自分が自分でいられる場所、「お母さん」ではない
・「母としての自分」「〇〇さんとしての自分」≒「家族に対する自分」「社会に対する自分」似たようなもの！？

◆大学生Ｅ
＜Ｅの感想＞
・お父さんとお母さんが２人でキッチンに立っていること
→私の家ではお父さんは座っているだけだった。
・家事がほぼ半分半分であること
・子供が生きいきとしているということ
・結婚のとらえかたが戸籍。性のこと、お墓のこと、土地の事が大きく関係している。

・岡山は未婚率が高い
・リビングとキッチンがオープンで、しかも子供に背はあまり向けないつくりの家になっていた。
・結婚とかは自分次第！こわがっていても、それぞれのターニングポイントで自分は絶対に変わっていくから今からこわがる必要はない。
・大学で学んだことが将来を決めることではない。
・人生も、家族の形も人それぞれ！
・祖父母の存在は大切
・仕事によっては仕事をやめざるをえなくなる。
・子どもと自分は別の人間ということを念頭に。
・ごはんは作り置きしたり工夫いっぱい。

◆大学生Ｆ
＜Ｆが聞き取った子育て世代の声＞
・旅行にもいけない。子どもがいたら遠いところだと帰省もできないと思う。
・お金があれば仕事はしたくない。でも家にいるだけは嫌だ。
・何か社会につながっていたい
・若い人と話ができるのが楽しい。自分が大学を卒業した時にパートのおばさんから「若いね」と言われたのを、今自分が思う。
・子育てについて全然想像はできていなかった。
・忍耐力はついた。
・子育てサークルに行って、積極的になる。自分ひとりでは子育てはできない。子どもが友達になる。
・育てきれるか不安→子どもは育つ
・スマホは適度に子育てに使える。
・子どもがいたら親が元気になるのが分かる。

◆大学生Ｇ
＜Ｇが聞き取った子育て世代の声＞
〇家族留学をなぜ受け入れたのか？
・誰も知人がいない岡山で子育てをはじめたが、とても大変だった。それを伝えたい。
・誰かがやらないとはじまらないと思った。
・子どもにもたくさんの人に触れ合ってほしい。
・もてなすのではなく、「日常の中に受け入れる」ことを大切に受け入れを行っている。
〇どうして専業主婦を選んだの？選んでどうだった？
・ご主人から「なんで働くの？その分稼ぐから家事育児してよ」→やけになって子育て。頼れなかった。

・子どもにふりまわされて自分の時間がない→人に合わせられるようになった。今までいかに自由にやっていたかが分かった。
・父母の生活を守ることができた。近くにいれば子どもとこんなに一緒にいなかっただろうし、自立できなかったと思う。
・自分がされてうれしかったことを、子どももうれしいはずだと思い込んで無意識に行っていることがある。「これは私が昔満たされてなかったことじゃないのか？本当に子どものためか？」自問自答。
・発想の転換ができて、しんどいのが減った。「今会って知り合った人は全て自分でつくった友達なんだ。つながりたい人とだけつながれるんだ」

〇子育てしやすいまちってどんなまち？
・補助金、保育園、公園が多い
・授乳室がある
・気にとめてる人がいるという安心

〇子どもがゲームやスマホを持つことについてどう思う？
・ゲームやスマホは本当に買い与えたくないけど、クラスの友達についていけなくなる。
・時間を決めて利用させる様にしている。大切なのはつき合う時間。
・悪いことばかりではない。そこから学んでくることも多い。

＜Ｇの感想＞
・子どもに「〇〇くんどう思う？」「どうしてそう思う？」と Why?にあたる質問を度々していた→考える習慣。
・課題やつらいことに直面したとき、その問題としっかり向き合っている。自分なりに考えを整理している→選択に後悔はしていない
・子どもたちをいろいろな人に触れ合わそうとしている。

◆大学生Ｈ
＜Ｈが聞き取った子育て世代の声＞
・育児と仕事を両立（大変だけど楽しい）

〇お母さんの１日のスケジュール
５：００　起床　洗濯　部屋の片づけ　保育園の準備（筋トレしながら）
６：００　朝食、お弁当の準備
６：３０　子どもを起こす
６：４５　家族で食事
７：００　子どもの着替え、はみがき
７：１５　下の子を保育園へ送るため出発
７：３０　保育園　到着

７：３７　保育園　出発
７：４８　会社　到着
８：００～１７：００　仕事
１７：１０　会社　出発
１７：２０　スーパーで食材を買う
１７：４０　保育園へお迎え
１８：００　帰宅、夕食準備
１８：３０　夕食
１９：００　子どもたちとのんびりすごす
２０：００　おふろ　上の子の宿題チェック　筋トレ
２１：００　子ども寝かしつけ　お父さん　帰宅
２２：００　洗濯セット、食器洗い、連絡帳記入
２３：００　資格試験に向けて勉強
２４：００　就寝

・（お母さんは今年体調を崩して）仕事をしばらく休み、働き方を変えた。今少しずつ新しい生活に慣れてきた。「色々あったけど今すごく幸せ」
・子どもがもう少し大きくなったら、もっと責任のある仕事もしたい。
・お父さん（夫）の帰宅は深夜で、こどもたちとの交流が少ない。
・専業主婦は忙しくはないけど大変。ストレスたまりやすい。金銭面もシビア。
・育児は大変だけど、子どもたちに元気をもらう。
・今のうちにいろんな経験をして。これからつらいことは必ずあるけれど、それを乗り越えるために、学生時代の経験は大事。

◆大学生Ｉ
＜Ｉが聞き取った子育て世代の声＞
・学生時代からライフプランについて考えておくことは大切。
・出産、結婚は流れにまかせるのは難しい(他とのかねあいから)
・子どもは全て親に影響されるわけではない。
・親にされた子育てでダメだった部分。嫌だったところは子にくりかえさないよう気をつける。講座とかにも参加した。子供が生まれてみないとわからないこと、得られないこともある。
・葬式、墓については親と話し合っておきたいところ。
・いつ何があってもいいように、家事マニュアルのようなものや、通帳についてなどの情報共有。
・朝、夜の分までまとめてごはんをつくっておき、帰宅後に盛りつけて食べるだけ。
・かつてはAM４時３０分起きとかだったが、今は、５時３０分でも間に合う。

・８時３０分から仕事なので、６時台にはごはんを食べている。
・夫は料理はしないが、家事は分担して行っている。
・互いの両親の手伝いもあり子育てができているが、板挟みてきなところもある。大変。
・結婚には覚悟が必要。タイミングも大事。

◆大学生Ｊ
＜Ｊが聞き取った子育て世代の声＞
・子育ては１人ではできない。（夫も育休を取得。妻は産休・育休のみで仕事を辞めずに続けてきた。）
・専業主婦が向くならよいが、ずっと子どもと２人きり向き合い続けるのもお互いにとってしんどいかも。
・子どもにはとにかくたくさん経験をさせる。
・今は働き方がいろいろできる。できる人が同時に２つ３つもできる。
・朝は夫が保育園に連れていく。

◆大学生Ｋ
＜Ｋが聞き取った子育て世代の声＞
○印象深かった言葉
・自分のことを大切にする。
・日頃から好きなことをやる。
・本当に出来ないことや無理だと思ったことはやらない。助けを求める。人に頼む勇気。
・先のことは心配しない。日々楽しく幸せを積み重ねていったら向うからタイミングや良いことがやってくる。
・出来なかったこと、やれなかった自分を怒らない。責めない。
・物事の捉え方は自分次第。いくらでも変わる。
・やりたいことはその時にやる。

＜Ｋの感想＞
○気づいたこと
・母親が子どもにきちんと向き合っている、会話を楽しんでいる。
・仕事から帰ってきた後でもつらそうにしない。大変そうでもない。
・好きなことをしているから両立も苦ではない。
・芯を強く持っている。自分を信じている。（私なら大丈夫、うまくいく）
・子育が一人で遊ぶのに慣れている。（それに対して）文句を言わない。
○疑問
・父親は何時に帰ってくるのか。（２０時半まで帰宅していなかったので）
・父親の役割とは。

・gender（性別）の影響は。
・どのような役割分担が夫婦でなされているのか。（主に共働き）
→「夫も時々手伝ってくれる」とおっしゃっていたのですが、具体的なことをより調査したい。

(2) 子育て世代へのアンケート

子育て世代のワークライフバランスに関する課題・ニーズ調査アンケート　集計結果

1　調査時期

2017年7月～12月

2　調査対象者

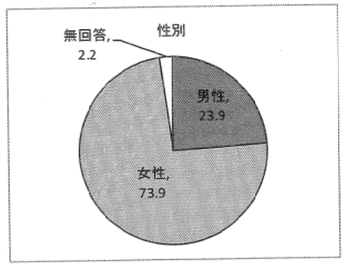
岡山市内の子育て世代の男性および女性

3　年齢

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年　齢	46	29.0	50.0	39.4	4.4

4　性別

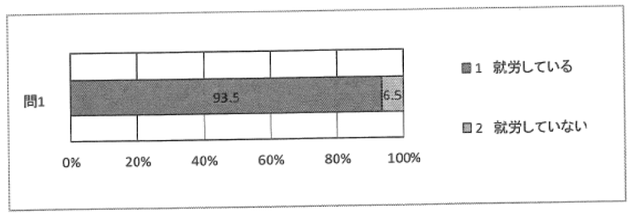
性　別	度数	%
男性	11	23.9
女性	34	73.9
無回答	1	2.2
合　計	46	100.0



5　問1

問1	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
あなたは就労していますか。	46	1.0	2.0	1.1	0.2

選択肢	度数	%
1　就労している	43	93.5
2　就労していない	3	6.5
合　計	46	100.0

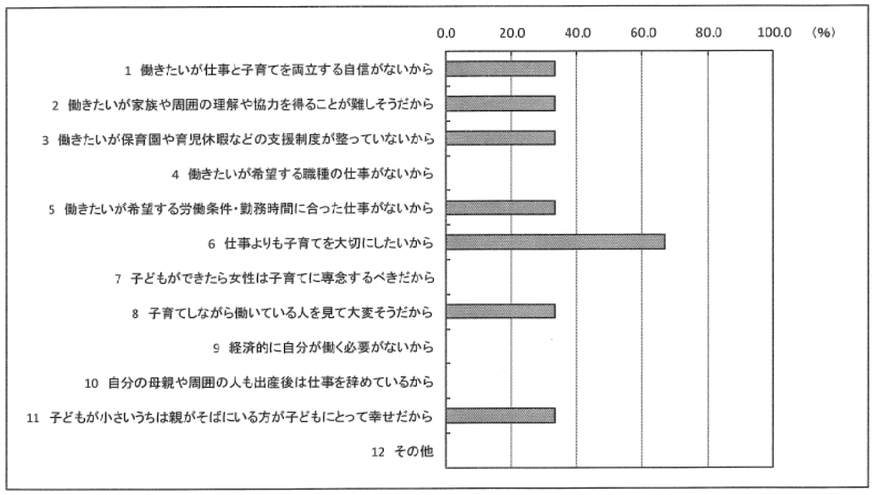


6　問2【問1で「就労していない」と回答した方のみ】

就労していない理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　働きたいが仕事と子育てを両立する自信がないから	1	33.3
2　働きたいが家族や周囲の理解や協力を得ることが難しそうだから	1	33.3
3　働きたいが保育園や育児休暇などの支援制度が整っていないから	1	33.3
4　働きたいが希望する職種の仕事がないから	0	0.0
5　働きたいが希望する労働条件・勤務時間に合った仕事がないから	1	33.3
6　仕事よりも子育てを大切にしたいから	2	66.7
7　子どもができたら女性は子育てに専念するべきだから	0	0.0
8　子育てしながら働いている人を見て大変そうだから	1	33.3
9　経済的に自分が働く必要がないから	0	0.0
10　自分の母親や周囲の人も出産後は仕事を辞めているから	0	0.0
11　子どもが小さいうちは親がそばにいる方が子どもにとって幸せだから	1	33.3
12　その他	0	0.0
合　計	8	—

n= 3

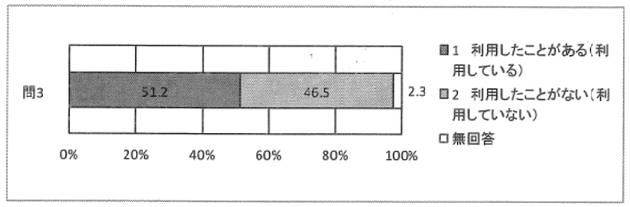


7　問3 【問1で「就労している」と回答した方のみ】

問3	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
あなたは育児休暇や短時間勤務制度など、仕事と育児の両立支援制度を利用した経験がありますか。または今利用していますか。	42	1.0	2.0	1.5	0.5

選択肢	度数	%
1　利用したことがある（利用している）	22	51.2
2　利用したことがない（利用していない）	20	46.5
無回答	1	2.3
合　計	43	100.0

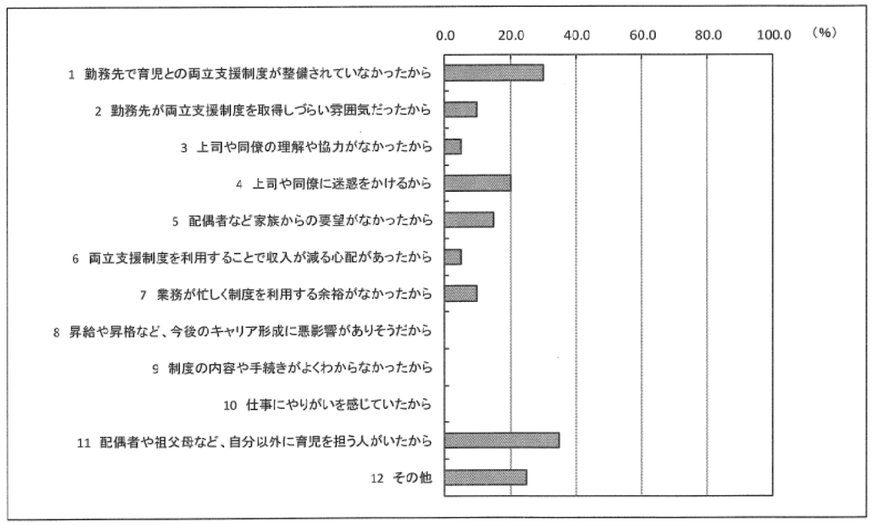
n= 43



8　問4 【問1で「就労している」と回答した方のみ】【問3で「利用したことがない」と回答した方のみ】
利用しない理由は何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　勤務先で育児との両立支援制度が整備されていなかったから	6	30.0
2　勤務先が両立支援制度を取得しづらい雰囲気だったから	2	10.0
3　上司や同僚の理解や協力がなかったから	1	5.0
4　上司や同僚に迷惑をかけるから	4	20.0
5　配偶者など家族からの要望がなかったから	3	15.0
6　両立支援制度を利用することで収入が減る心配があったから	1	5.0
7　業務が忙しく制度を利用する余裕がなかったから	2	10.0
8　昇給や昇格など、今後のキャリア形成に悪影響がありそうだから	0	0.0
9　制度の内容や手続きがよくわからなかったから	0	0.0
10　仕事にやりがいを感じていたから	0	0.0
11　配偶者や祖父母など、自分以外に育児を担う人がいたから	7	35.0
12　その他	5	25.0
合　計	31	—

n= 20



選択肢12　その他　の内容

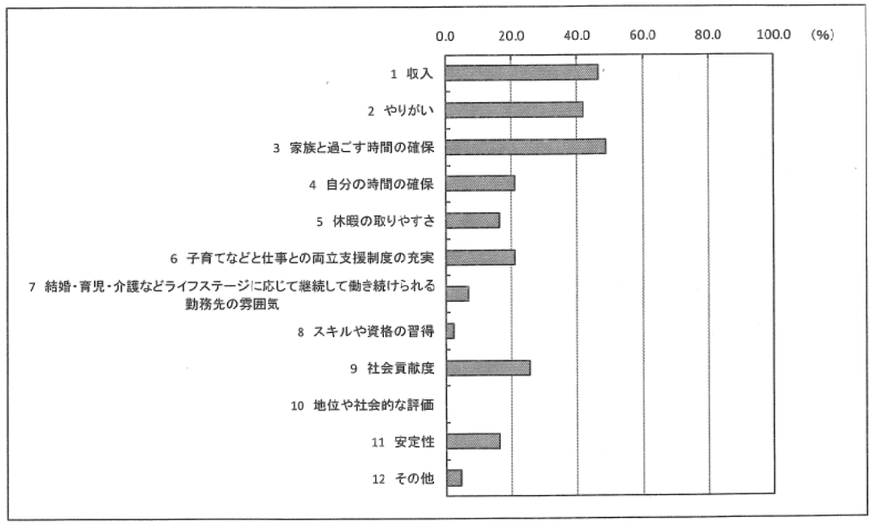
・両立できないので、育児の状況に合わせて仕事をやめていた。
・必要がなかったから
・パートなので、利用しなくても大丈夫。
・利用後の勤務先配置で希望に添わない部署への配置が予想されるため
・自営業だから

9　問5【問1で「就労している」と回答した方のみ】

あなたが仕事をするうえで重視していることは何ですか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　収入	20	46.5
2　やりがい	18	41.9
3　家族と過ごす時間の確保	21	48.8
4　自分の時間の確保	9	20.9
5　休暇の取りやすさ	7	16.3
6　子育てなどと仕事との両立支援制度の充実	9	20.9
7　結婚・育児・介護などライフステージに応じて継続して働き続けられる勤務先の雰囲気	3	7.0
8　スキルや資格の習得	1	2.3
9　社会貢献度	11	25.6
10　地位や社会的な評価	0	0.0
11　安定性	7	16.3
12　その他	2	4.7
合　計	108	—

n= 43



選択肢12　その他　の内容

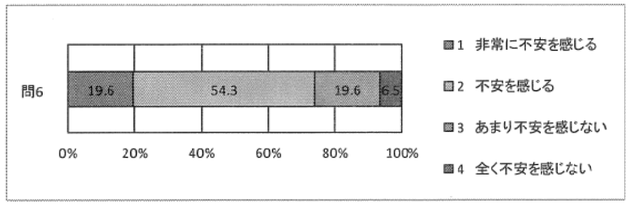
・ライフステージに合わせて勤務形態を非常勤などにかえる。

・自分がやりたい仕事であるかどうか。興味をもって学び続けられる仕事かどうか。1～11は全部おまけです。
※ナンセンスな選択肢ですね。このアンケートを作っている人の価値感が浮きぼりになっていると思います。

10　問6

問6	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
あなたは将来の介護について、不安を感じていますか。	46	1.0	4.0	2.1	0.8

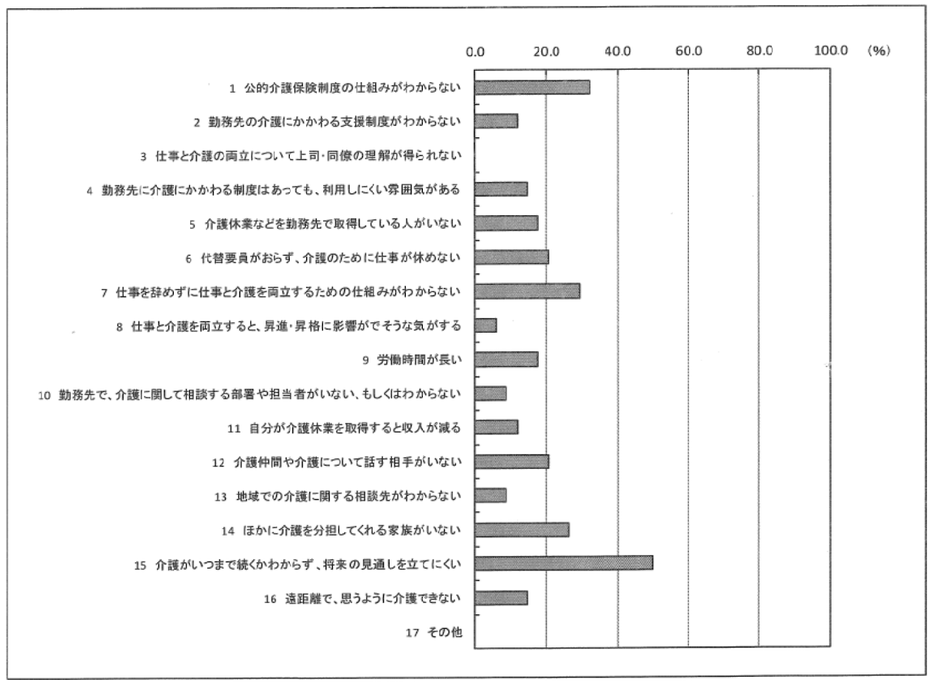
選択肢	度数	%
1　非常に不安を感じる	9	19.6
2　不安を感じる	25	54.3
3　あまり不安を感じない	9	19.6
4　全く不安を感じない	3	6.5
合　計	46	100.0



11　問7【問6で「非常に不安を感じる」「不安を感じる」と回答した方のみ】
具体的にどのような不安を感じますか。【いくつでも】

選択肢	度数	%
1　公的介護保険制度の仕組みがわからない	11	32.4
2　勤務先の介護にかかわる支援制度がわからない	4	11.8
3　仕事と介護の両立について上司・同僚の理解が得られない	0	0.0
4　勤務先に介護にかかわる制度はあっても、利用しにくい雰囲気がある	5	14.7
5　介護休業などを勤務先で取得している人がいない	6	17.6
6　代替要員がおらず、介護のために仕事が休めない	7	20.6
7　仕事を辞めずに仕事と介護を両立するための仕組みがわからない	10	29.4
8　仕事と介護を両立すると、昇進・昇格に影響がでそうな気がする	2	5.9
9　労働時間が長い	6	17.6
10　勤務先で、介護に関して相談する部署や担当者がいない、もしくはわからない	3	8.8
11　自分が介護休業を取得すると収入が減る	4	11.8
12　介護仲間や介護について話す相手がいない	7	20.6
13　地域での介護に関する相談先がわからない	3	8.8
14　ほかに介護を分担してくれる家族がいない	9	26.5
15　介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい	17	50.0
16　遠距離で、思うように介護できない	5	14.7
17　その他	0	0.0
合　計	99	—

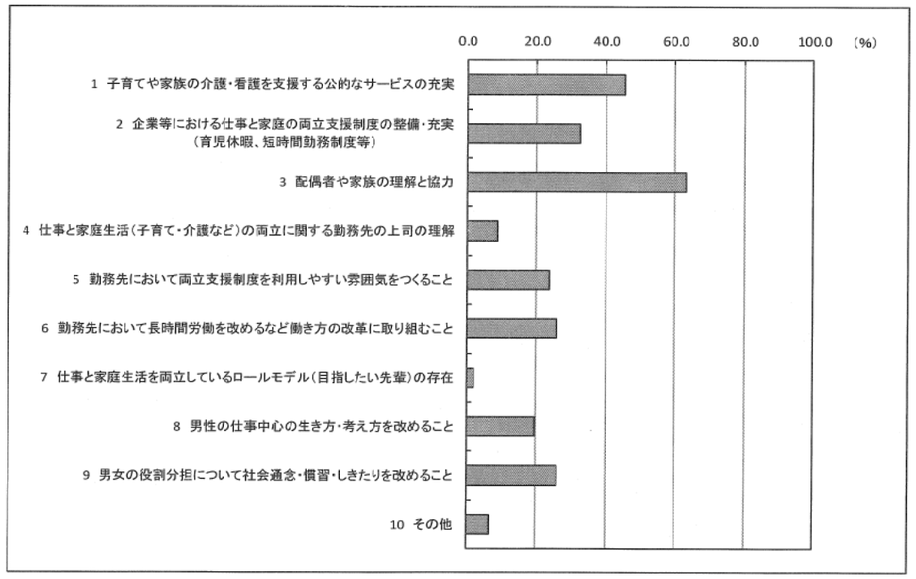
n= 34



12　問8
女性も男性も、家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか。【3つまで】

選択肢	度数	%
1　子育てや家族の介護・看護を支援する公的なサービスの充実	21	45.7
2　企業等における仕事と家庭の両立支援制度の整備・充実（育児休暇、短時間勤務制度等）	15	32.6
3　配偶者や家族の理解と協力	29	63.0
4　仕事と家庭生活（子育て・介護など）の両立に関する勤務先の上司の理解	4	8.7
5　勤務先において両立支援制度を利用しやすい雰囲気をつくること	11	23.9
6　勤務先において長時間労働を改めるなど働き方の改革に取り組むこと	12	26.1
7　仕事と家庭生活を両立しているロールモデル（目指したい先輩）の存在	1	2.2
8　男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること	9	19.6
9　男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりを改めること	12	26.1
10　その他	3	6.5
合　計	117	—

n= 46



選択肢10　その他　の内容

・行政とNPOなど民間団体等の支援サービスネットワーク構築整備とその運用。
・会社勤めを最優先事項にする（できる）健康な成人をモデルに社会を考える体制の改善
・大変なことや助けてほしいことをちゅうちょなく言える社会の雰囲気。両立しようとしなくていいよと言ってくれる人の存在や両立しなければいけないというのは思いこみであることを知らせてくれる人の存在。

おわりに

本ニーズ調査事業では、子育て世代と大学生の抱く仕事と子育てや介護などの両立についての意識や実態の調査を行った。調査ではなるべくリアルな声を聴くことを目指し、アンケート調査とともに、「家族留学」を活用した聞き取りも実施した。

本ニーズ調査事業を協働した働く介護者ほっとステーション「すまいる」は、その名称が示す通り、「介護者」に焦点をあて、「介護者」（主に家族をはじめとした無償の介護者）のサポートを主なミッションとしており、直接子育て家庭に関連する事業を展開しているわけではない。しかし、本事業に参加したのは、いつ、誰もが突然「介護者」となる可能性があり、そのとき、多くの人はとまどい、不安を抱き、そしてこれまでの生き方を変えざるを得なくなり、孤立化していくという現象が、「子育て」と多く共通する側面を有していると考えていることによる。また、人生に即してみれば、「子育て」と「介護」は、同じ一人の人生のレールのうえで生じるものであり、別々に考えるのではなく、一人の人生においてつながる出来事として捉える必要があると考えていることもある。

今回のアンケート調査において行った「あなたは将来の介護について、不安を感じていますか」という問いに対して、大学生は「非常に不安を感じる」が 29.9%、「不安を感じる」が 51.1%（合計 81.0%）、子育て世代は「非常に不安を感じる」が 19.6%、「不安を感じる」が 54.3%（合計 73.9%）という回答がなされた。以上のことは、「子育て」のみならず、「介護」についても、子育て世代と大学生は不安を抱いており、若い世代＝「子育て」の支援という単純な図式を考え直す必要があることを示している。

子育て世代の抱く不安の要因は多様であるが、「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」、「公的介護保険制度の仕組みがわからない」、「仕事を辞めずに仕事と介護を両立するための仕組みがわからない」などが上位を占めている。他方、「家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか」という質問に対し、子育て世代、大学生ともに、「子育てや家庭の介護・看護を支援する公的なサービスの充実」が上位を占めている。公的なサービスの存在がわからない、たとえ公的なサービスがあってもそれが不十分に感じるという意識の一端をみることができる。多様な子育て・介護の実態に即した公的なサービスのあり方の確立はきわめて難しい問題といえるが、限られた資源で効果のあるサービスをさらに探究していくことが求められているといえよう。

さらに、本調査で注目したのは制度やサービスというシステムの背後にある価値観、雰囲気とでもいうべきものである。それは子育て世代のアンケート調査の、「家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか」という質問の「その他」の選択肢で記された以下の記述である。

- 会社勤めを最優先事項にする（できる）健康な成人をモデルに社会を考える体制の改善

- 大変なことや助けてほしいことをちゅうちょなく言える社会の雰囲気。両立しようとしなくていいよと言ってくれる人の存在や両立しなければいけないというのは思いこみであることを知らせてくれる人の存在。

「健康な成人」をモデルとした社会のあり方、大変なときに助けてと言えない社会の雰囲気をいかに見直していけるのか。以上の記述は、これから私たちが目指していくべき社会のあり方を示唆しているといえるだろう。

本ニーズ調査事業の岡山市役所における協働先は、女性が輝くまちづくり推進課であった。当課では、本ニーズ調査事業において、可能なかぎり子育て世代と大学生のリアルな声を集め、今後の施策検討に活かしたいという目的があった。その意味で、本ニーズ調査事業において、ワークライフバランスのあり方を考えるシンポジウムや「家族留学」を活用した授業を通じて、大学生や子育て世代の生の声を聴き、若い世代のリアルな不安や悩み、実態に触れたことは、男女共同参画の施策を進める行政にとっても貴重な経験となった。

例えば「家族留学」において、大学生が留学中に子育て世代から聞き取った印象に残った言葉や気付いたことをまとめたメモからは、仕事と子育てを両立しながら、あるいは、“専業主婦”として子育てに向き合いながら、「しんどい」ときには「しんどい」と言える場を大切にする、あるいは、社会とのつながりを模索する子育て世代の姿が伝わってくる。また、子育てに対して漠然とした不安を抱いていた大学生が、家族留学を体験することで子育てのマイナスイメージがプラスに変わるなどの効果とともに、固定的な性別役割分担に対する疑問や家庭生活におけるジェンダーの視点も垣間見ることができる。

女性の社会進出や共働きの増加など、社会情勢が大きく変化する中、育児や介護などと仕事との両立を含めたワークライフバランスの実現は、性別にかかわらず、男女が共にあらゆる場で個性や能力を発揮するために、今後一層重要となるテーマの一つである。

そういった意味でも、今回の事業を通じて市民協働により様々なアプローチを試みたことは、大学生、子育て世代、大学、介護者の支援に取り組む民間団体、行政など、それぞれの立場において、ワークライフバランスの実現に向け相互に連携した取組みのスタートとなったのではと感じる。

平成 29 年度　岡山市市民協働推進ニーズ調査事業
子育て世代が抱えるワークライフバランス及び将来を見据えた
大学生等の多様なライフプラン形成に向けた課題・ニーズ調査プロジェクト
調査報告書

作成者：介護者ほっとステーション「すまいる」
協働課：岡山市役所　女性が輝くまちづくり推進課
印　刷：広和印刷株式会社

2018 年 2 月 27 日

Think
about
one's LIFE !